

新型転換炉ふげん発電所の起動用真空ポンプドレンセパレータの破損について
(平成14年度計画停止中)

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所（新型転換炉；定格電気出力16.5万kW）は平成14年度計画停止のため、本日11時30分に発電を停止し、18時34分に原子炉を停止した。

その後、復水器の真空を維持するため、18時37分、起動用真空ポンプ^{*1}の運転を開始したところ、現場近くの運転員が衝撃音を聞いた。

このため現場確認を行ったところ、18時41分、同ポンプの出口に設置されているドレンセパレータ^{*2}（円筒形横置型）が、溶接部に沿って横方向（軸方向）に割れが発生し、ドレンセパレータ内にあった水が床面に漏えいしているのを確認した。

直ちに同ポンプの停止操作を開始し、18時47分に停止操作を完了、ポンプの入口側と出口側の弁を閉とし、同ポンプを系統から隔離した。

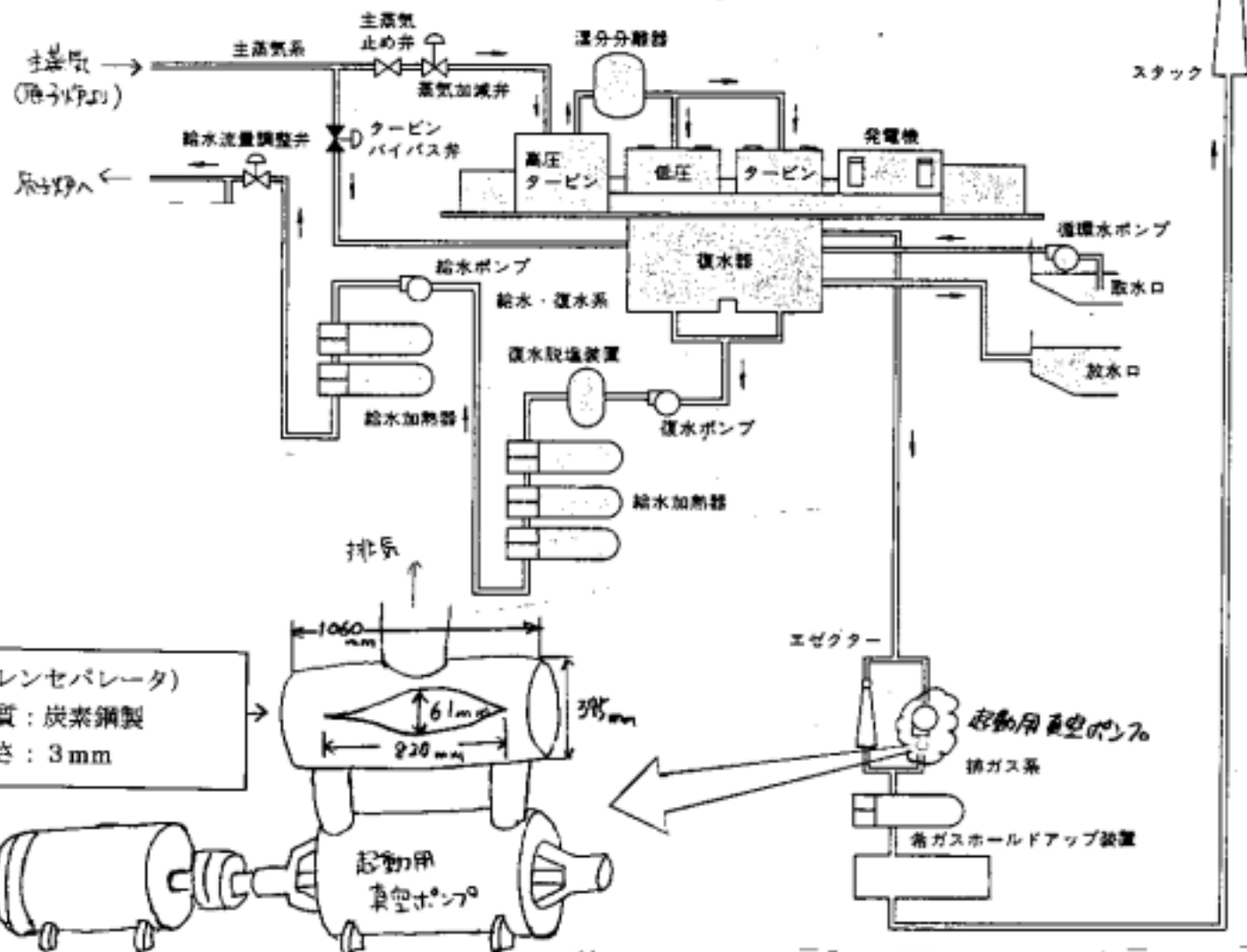
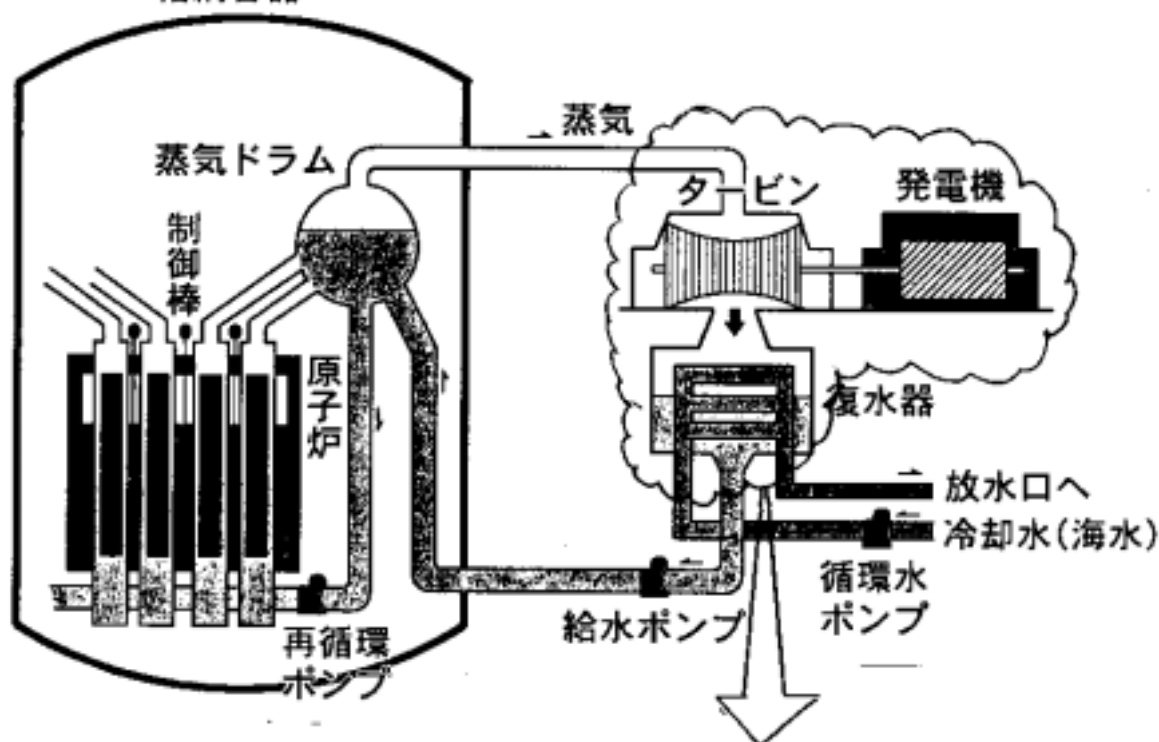
床面に漏えいした水からは放射能は検出されず、今回の事象による周辺環境への放射能の影響がないことを確認している。

また、原子炉停止後の今後のプラント操作に対しても、今回の事象による影響はない。

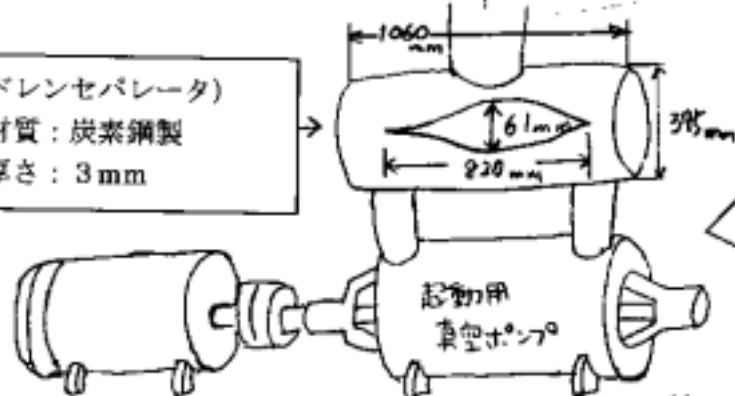
* 1：起動用真空ポンプ：原子炉起動時と、停止時において、タービンの復水器の真空を維持するため、真空引きをするポンプ。

* 2：ドレンセパレータ：真空ポンプから排気されるガスと水分のうち、水分だけを除去する装置。

格納容器



(ドレンセパレータ)
材質：炭素鋼製
厚さ：3mm



割れの状況

ふげん系統図

参考配付



ドレンセパレータ



起動用真空ポンプ

(奥にあるのがドレンセパレータ)



ドレンセパレータ(拡大)